

伝えたい「助け合い」の心

熊本・光輪寺

熊本地震から5年／地元仏青らが園児に炊き出し

2016年4月に最大震度7を2回観測した熊本地震から5年となる4月14日、熊本市東区・光輪寺の光輪保育園（園長＝山田敬史住職）で、園児に震災の教訓を伝える催し「熊本地震での助け合いを伝える」が行われた。

震災直後から炊き出しなどの支援活動が続けてきた地元・熊本教区益北組の仏教青年会（徳尾真龍会長）とボランティア団体のTEAM熊本、福島県で被災者支援を行うTEAM二本松のメンバーが、年中・年長組の園児37人に炊き出し用の大鍋で作った東北の郷土料理・芋煮を振る舞った。そして園児に被災当時の様子、日頃の備えや助け合いの大切さを語った（写真上）。

光輪寺は震災で本堂が全壊。寺も門徒も被災しながら保育園の園舎を避難所として開放し、最大70人がここで共同生活を送った。山田住職（48）は被災直後の様子を記録した写真パネルを園児に見せながら、「近所の家がすべて壊れるような大きな地震が5年前にありました。その時に食事だけではなく、いろいろな人に支えられました。助け合うことはありがたいことです」と話した（写真下）。

年長組の木下結衣さん（5）は「芋煮は初めて。ちょっと熱かったけど、とてもおいしかった」と笑顔を見せていた。



夕方からは地域の人にカレーライス500人分の炊き出しを行い、つながりの大切さを語り合った。

